



電子カルテ × スマートフォン

MI・RA・Is
ミライズ モバイル活用事例「まだ終わりじゃない！」
医療 DX への挑戦で進化し続ける病院に。

医療法人社団如水会 今村病院

所在地：佐賀県鳥栖市轟木町 1523 番 6 号

病床数：247 床（一般病床：173 床、回復期リハビリテーション病棟：30 床
地域包括ケア病棟：44 床）

佐賀県鳥栖市の今村病院様は、地域に根差し急性期医療を強化している総合診療・救急告示病院です。2019年8月に電子カルテシステム「MI・RA・Is」を導入、モバイル・スマホに対応した医療安全支援機能もご利用いただいています。

医療 DX の推進に力を入れており、デジタル化推進委員会を発足し、積極的に活動されています。

導入の背景や活用方法について、看護課長の池邊（いけべ）様と、事務管理部の高山（たかやま）様にお話を伺いました。

事例のまとめ

課題

- ・ 残業時間が多い
- ・ 煩雑さから三点認証の実施率が低下していた
- ・ ノートパソコンが人数分ないため、入力をするに行えない
- ・ 夜間ラウンド時に、ナースカートの音が気になる



解決

- ・ 残業時間が減った
- ・ 手軽に三点認証ができるようになり、実施率が高まった
- ・ iPhone からでも入力できるようになった
- ・ ナースカートがなくても、夜間ラウンドができるようになった



医療 DX 推進委員会のきっかけを教えてください。

高山様 理事長から医療 DX を進めていこうという話があって、2022年に東京の病院を見学に行きました。

院内で見学内容を共有したときに、今後もこういった情報共有の場を設けたいという話があったんです。それがきっかけで、デジタル化推進委員会ができました。

池邊様 スタッフの意識が変わって、普段からアンテナを張るようになりました。ChatGPT など、医療以外の情報も集めるようにしています。

他にもこんなに便利なものがありますよって、どんどん共有されるようになりました。

高山様 今は理事長と事務長、医事課長、人事、看護部からメンバーを集めて、毎月 1 回話し合いや情報共有をしています。



看護課長 池邊様

これまでの検討内容を教えてください。

高山様 理事長は「患者様をお待たせしない」を1番に考えているので、呼び込みシステムや予約システムなどの検討が多いです。コロナ禍の時は、待ち合い室で待たせない工夫を話し合いましたね。

他には「今患者様に何ができるのか」という考えから、予約や後払いのシステムを検討しました。

池邊様 初めから無理だと判断するのではなく、「まずやってみる」ということを大事にしています。

もっと高め合えないかなというのを常に考えています。



導入のきっかけを教えてください。

池邊様 ノートパソコンをナースカートに乗せて運ぶとガタガタと音があるので、夜間ラウンドの際は患者様の睡眠を妨害してしまうのではないかと心配していました。

ノートパソコンにバーコードリーダーを繋いで三点認証をしていたのですが、電波の調子によっては読み取れないこともあったんです。



患者様のベッドサイドは点滴や呼吸器があるので、バーコードリーダーが届かないこともあって、限界を感じていました。

医療安全の対策室からも、このままでは医療事故が起きかねないと言われていました。

スタッフからiPhoneで三点認証をしたいという声もかなり上がっていて、その声に応えたいと思っていました。

その時期にモバイル活用と医療安全支援機能のお話を聞いて、これしかないと思いましたね。

運用開始時の工夫を教えてください。

池邊様 新しいものって、最初は抵抗がある人も多いと思うんです。なので、今日は誰がiPhoneを使うのか決めていました。

医療安全支援機能を使うことが当たり前になってもらいたかったので、使い方を丁寧に説明しながらiPhoneを配って回りました。

今ではみんな医療安全支援機能に慣れて、iPhoneに搭載されている機能も有効活用しています。

例えば、タイムスケジュールに合わせてタイマーを使ったり、点滴の流量が変わって計算をし直すときに電卓を使っています。

私の方がびっくりするくらい使いこなしていますよ。



iPhone 導入台数の決め方を教えてください。

高山様 本格的に導入する前に、運用が可能かどうかレンタルで試してみました。

レンタルの結果を踏まえて、最小構成の13台でスタートしました。そのうちの7台は3階病棟に導入しましたね。

モバイル運用が浸透して現場から「iPhoneが足りない」という言葉が出たときに、追加を検討しています。先月もHCUに4台追加して、今は計17台で運用しています。

今後もスタッフの要望に合わせて、追加していく予定です。



どんなところに導入の成果を感じますか？

池邊様 ナースカートの音を気にする必要がなくなりました！自分の身体と点滴1つで患者様のところへ行けて、更新ができる。何より音がしないことが非常に良いです。

あとは、アクセスのしやすさですね。iPhoneを肩から下げているので、患者様のバーコードを読み取りやすいです。

バーコードリーダーと違ってコードがないので、患者様のバーコードに届かないことがなくなりました。

「コードが届かなかった」という理由がなくなったので、しっかりと三点認証するようになりました。

—導入の成果—



ナースカートがなくても
三点認証できる！

患者さんの睡眠を
妨害しない！



ベッドサイドでバイタルを
片手で入力できる！

導入時に不安だったことはありますか？

池邊様 「工作中に携帯を触っている」と患者さんから誤解されないか不安でした。

実際に導入してみると、そのような声は上がらなかったなので安心しました。

iPhone のケースを特殊な形にしたので、その影響かもしれません。



他に使用している機能はありますか？

池邊様 三点認証だけでなく、バイタルや看護介入の入力も医療安全支援機能からしています。

あとは写真ですね。撮った写真を電子カルテに転送しています。フルHDなので、血管もはっきり見えますよ。

当院は褥瘡の患者様が多いので、褥瘡の診療計画書によく使っています。



全員分のパソコンはないので、パソコンの空きがないときは医療安全支援機能から入力ができます。入力方法を選べるようになったので、とても便利になりました。

残業時間に変化はありましたか？

池邊様 残業が減りました！ 仕事をする中で残業が減ったことを実感しましたし、実際にデータを見ても減少していました。

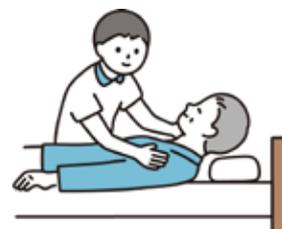
残業の平均値が明らかに去年より下がっていったんです。

スタッフも業務にかかる時間が短くなったと言っていました。

入力に費やしていた時間が削減されたので、患者様のところに行く時間も増えました。



私たち看護師の仕事は患者様と接することなので、以前より患者様のために行動ができるようになったと感じています。



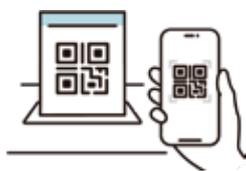
スタッフの声に応える工夫を教えてください。

池邊様 病棟に QR コードを貼って、スタッフからアンケートを取っています。現場の声はとても大事なので、「欲しいって思うなら声を出そう！アンケートに書こう！」とスタッフによく言っていますね。

意見をただ吸い上げるだけではなくて、真摯に対応したいと思っています。

アンケートに答えてもらうと、スタッフの声が理事長に届いて、現場に本当に必要なもの分かってもらえます。

自分の声を拾ってもらえたと感じると、スタッフの満足感にも繋がりますよね。



今、委員会で検討していることを教えてください。

高山様 情報伝達の方法を検討しています。今は張り紙や電話で情報を伝達していて、効率の悪さが課題です。

災害発生時の安否確認にも使えますし、効率的な情報伝達が行えます。

自分の好きな時に確認できるのもいいですね。

あとは AI ですね。申し送りや先生からの連絡を AI で要約できたらいいよね、と前回の委員会で話しました。



今後の構想について教えてください。

池邊様 「医療安全支援機能を導入して助かりました」とスタッフからよく言われます。

でも、私はそれで終わりではないと思っています。例えば、今後は内服の確認をバーコードで行いたいと考えています。

これからもスタッフの声にどんどん応えて、挑戦を続けていきたいです。

モバイル・スマホに対応した医療安全支援機能



三点認証

バーコード付きリストバンドを患者様につけていただくことで、三点認証ができます。



カメラ機能

カメラで撮影をした写真データを、無線にてサーバーへ転送します。



看護支援機能

バイタル、食事、INOUTの入力や、看護介入項目の登録・実施入力が可能です。



簡易メモ機能

ベッドサイドで記載したメモを記録入力時に流用可能です。

患者カルテ参照・記事入力機能 ※如水会今村病院様ではご導入されていません。

パソコンが無い場所からでも患者カルテ情報の参照・診療記事の入力ができます。

患者情報

病名

診療記事

オーダー参照

検査参照

